

# こぶねだより

神奈川県立大船高等学校  
校長通信 3月号②

校長 富樫 由里子

令和2年3月11日

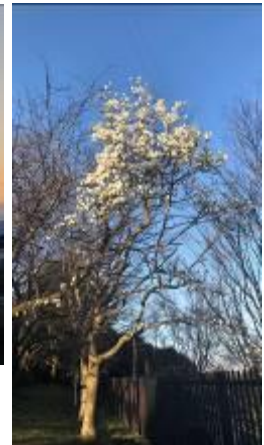
大高生の皆さんは規則正しい生活を送っているでしょうか。学校では先生方が成績処理や新学期を迎える準備などを進めています。一昨日は健康観察に関するアンケートをマチコミメールで行いました。多くの生徒から回答がありましたが、まだ全員からの回答には至っていません。また、回答を遠慮していただくようお願いしたにもかかわらず、保護者の方からの回答もありました。この度の臨時休業期間は、凶らずも生徒の皆さんの「自律」「自立」度が試される機会になっています。学習や運動はもちろん、食事や睡眠、こまごました家の仕事、家族の方々との会話など、日々の様々な営みに丁寧に向き合い、自分自身をうまくコントロールして過ごせることを願っています。

昨日、次の内容の文書を入れた封書を各ご家庭に郵送しました。ご確認ください。

- ・学習課題に関するお知らせ
- ・「G Suite for Education」活用のためのアカウント等
- ・教科書購入に関するお知らせ



3月6日の夕方、西棟2階の「2ピロ」からの眺めです。校門を入れて左にあるハクモクレン(右)は満開を迎えています(3月11日)



今日は3月11日。東日本大震災から丸9年が経ちました。9年前の今日、私は当時の勤務校で、生徒会の生徒と一緒に、生徒会室で4月の部活動説明会の資料を印刷していました。製版ボタンを押した直後にぐらりと揺れて停電し、製版が途中でストップ。その後、グラウンドに出て生徒の安否確認をしたり、近くの駅に情報収集に行ったりと職員は手分けして対応に当たりました。交通はすべてストップ、家に帰れない生徒は学校に泊まることになり、私も女子生徒と一緒に保健室で一夜を明かしました。床に毛布を何枚も敷いて寝たのですが、停電のために暖房が十分ではなく、毛布を通して感じたあの床の冷たさは今でも忘れることができません。

少し前に、『風の電話』という映画を見ました。主人公は「ハル」という高校生。ハルは東日本大震災の時に岩手県の大槌町に住んでいましたが、両親と弟が津波にのまれ、まだ見つかっていません。被災後は広島のおばさんの家で過ごしていましたが、いろいろな人の世話になりながら故郷の大槌を訪ね、風の強い丘に設置された電話ボックスから、受話器を握りしめ亡き両親に話しかけます。

今年は、新型コロナウイルス感染防止への配慮から、追悼式の開催がとりやめになりました。メディアでも例年に比べ東日本大震災が話題にのぼることが少ないように感じます。知ること、忘れないこと、理解を深めること、伝えること、つながること…。私たちができる関わりをそれぞれの場で続けていかれたらと思います。

★今月の「こぶねだより」は短いものを複数回発行予定です。学校の様子などを少しでも発信していきたいと思えます。